

# 私の臓器移植体験から

## — 腎臓病の恐ろしさと臓器提供にご理解を —

都留文科大学国文学科教授 鷺 只 雄

夜明け方激しい頭痛と吐き気で目を覚ました。前夜酒を飲んだわけでもないのに吐くというの

はただごとではないから夜の明けの待つてホームドクターのもとへとびこんだ。医師は血圧を計つただけで顔色を変え、すぐに大病院で精密検査を受けなければなら

ん事態と言う。早速検査をしてもらうと慢性腎不全と診断され、絶対安静で即入院。昭和六十二年（一九八七）十一月のことである。

それからが大変だった。腎臓といふのは一口で言うと血液の清掃係という最も重要な役割を果たしていく、その機能が通常の五〇%以下になると尿毒症といふゴミ害で人は死ぬ。私の場合は一〇%で、あと数年でそうなると宣告された。この病気の厄介なところは自覚症状が殆どなく、五年一〇年という単位でゆっくり悪化するためには見えたときには殆どが手遅れで、しかもこれを治す薬も注射もないというのが現状である。今できるたった一つの方法は塩分とたんぱく質を制限した食事療法。しかしこれは腎機能の低下を一日でも先に延ばそうというも

のであって治療ではない。

これまで周囲に腎臓病の患者を見たことがなかったので自分が病してみて始めて薬も注射もなく、ただ死の来るのを待っているだけである。

では腎不全患者は皆尿毒症で死ぬのかというと現在それを回避するには二つの方法がある。一つは機械に腎臓の代用をさせる人工透析、もう一つは他人の腎臓をもらつて移植することである。透析は血

液を体外にして機械の力で浄化したあと体内に戻すもので一回に約五時間かかり、週三回、一年中風邪をひいても熱を出してもそれをやらないと尿毒症で死んでしまうから休むわけにはいかない。しかしこれは延命策であって治療ではないから徐々に悪化していくのは避けられない。

これに対し移植には生体（生きている人からの場合）と死体（死んだ人から）。腎臓の場合は心臓や肝臓と違って脳死でなくともよい）腎移植がある。人間には腎臓が二つあり、一つでも生きていけるので肉親から一つもらって移

植に成功すれば健康を回復して職場に復帰することは勿論、女性であれば二人、三人と子供を生むこともできる。これは死体腎であつても変わらない。

従つて現在透析患者にとっては腎移植が唯一の根本的な治療法でこれの出来るのがベストである。

しかし日本では年間約七百例（肉親などからが五百例、あと二百は死体腎から）しか移植がなく、それに對して透析患者は既に十万人をこえ、年々八千人ずつ新たに透析患者が激増しているのが現状である。

私の場合発病から一年半で透析となり、見かねた五歳上の姉（当時五十八歳）から一つを恵贈され死から生還することができた。この四月で術後二年半となり、順調に経過してほぼ旧に復しつつある。ただし過労は禁物なので無理はしない。その間に寄せられた大

学教職員の方々のご厚情には深く感謝している。

この体験から私は専門の研究とは別に次の点を広く社会に訴えて知りたい。第一に臓器移植によって立派に社会復帰できる患者のいることを知っています。

ただで死後の臓器提供者としている。

## バザーのお知らせ

### 暮らしを見直そう会

#### アースデーバザー

アースデー（地球環境を考える日）の4月22日に先がけてリサイクルの集い、ガレージセールを開催します。ゴミを出さない暮らし、資源を大切にする暮らしをしたい方、年に一度のお祭り気分で、ワイワイガヤガヤ集まりませんか。子どもの古着や、不用品、遊休品手作り品、野菜など何でも持ちよって楽しい“市”を開きましょう。

日 時 4月19日(日)  
午前11時～午後2時  
場 所 大月信用金庫上谷支店 駐車場  
(ファミリコ斜め前)  
問合先 杉本敏子 ☎(43)7355  
(毎月第3日曜日、上谷家中通り、古屋さん宅工場跡地にて、定例開催中)

### 第7回チャリティバザー

日時 4月25日(土) 午後1:00～  
(売り切れ次第終了)  
場所 富士女性センター  
出品 日用品、キッチン用品、寝具、会員手作り品、大判スカーフ、食品類（お菓子、砂糖、コーヒー、海苔、麺類、手作りのお菓子、特製おでんのみそ）、その他  
福祉施設に入所なさっている方の作品を展示してお買あげいただくコーナーも開設します。  
主催 国際ソロプロミスト山梨一芙蓉  
会長 森島敬子  
事務局 富士吉田新倉228 ☎ 0555-22-0596  
連絡先 赤沢京子  
四日市場222 ☎ 43-2516

一つは腎臓病の恐ろしさについて知りたい。第二に臓器移植によって立派に社会復帰できる患者のいることを知っています。

ただで死後の臓器提供者としている。登録してくださる方が一人でも多く増えるように努力すること。第三に脳死と臓器移植のかかえる命倫理の問題について多面的に研究することとし、すでに始めている。